

日野市  
新たな学校づくり・社会教育施設づくり  
検討委員会（第4回）資料

日野市教育委員会  
令和6年2月9日（金）

- 1) 避難所としての学校について（第3回の続き）
- 2) 中間報告に向けた整理
- 3) 特別教室の設置・整備に関する考え方
- 4) ラーニングセンターの整備の方向性

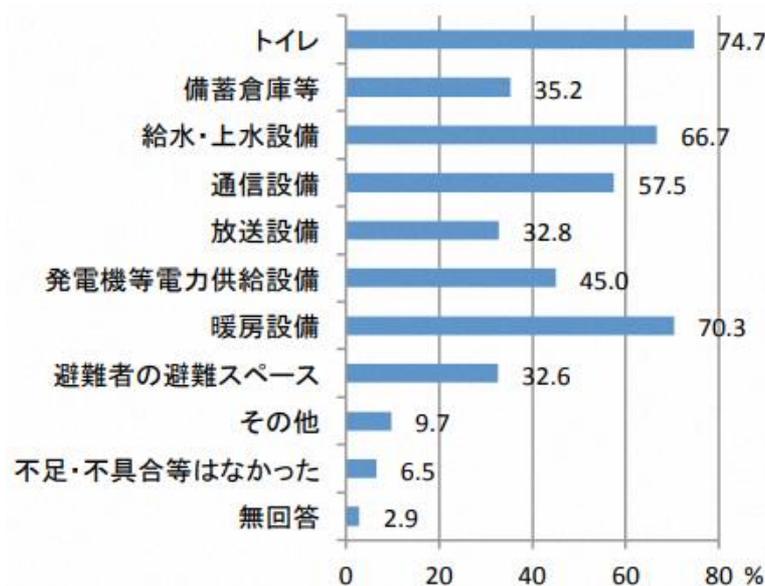
## 1) 避難所としての学校について（第3回の続き）

# 1) 避難所としての学校について (第3回の続き)

## 論点9) 避難所としての学校施設 (第1回検討委員会「スライド37」より)

### 児童・生徒や地域にとって安心・安全な避難所としての体育館を計画

- 小・中学校は指定避難所に指定されており、体育館は被災時には避難者の受け入れが求められる。しかしながら、学校の立場では、空調・電気設備・情報回線の不足、備蓄の不足、バリアフリー化の不徹底など課題が指摘されている。
- 一部学校においては災害リスクのある立地であることも課題であり、学校自体の防災・減災上の工夫や災害回避も含め、避難所として備えるべき機能について検討する必要がある。
- さらに、避難所運営における学校、地域、行政の役割分担についても懸念が示されており、学校施設の複合化・共用化と同様に組織面での検討も必要である。



避難所で問題となった施設・設備

(文部科学省「東日本大震災における学校等の対応等に関する調査研究報告」より)

#### 避難所としての設備等に関する教職員の意見

- 避難所の暑さ・寒さ対策・電源（自家発電設備）、電気（停電になったときの夜間）、情報回線（電話等）の不足、トイレ（絶対に数が足りない。ライフラインが止まると水洗トイレの機能が低下）（小学校校長）
- バリアが多くあり、障害のある人、高齢者の避難には不適合である。停電時の予備電源が十分でない。（中学校校長）

#### 避難所としての運営する上での組織に関する教職員の意見

- 避難所に指定された場合、教職員は児童の指導等に専念すべきだが、実際にその状況になった場合は、場所を長期に提供したり避難所の運営にも携わったりする可能性が高いため、行政、地域との役割分担を明確にし、運用する必要がある。（小学校校長）
- 教室掲示等の情報や子供の私物等の紛失がないように考えていく必要がある。どこの教室から避難場所にするか、問題になる。（小学校校長）

## 避難所としての体育館に求められる機能 (第3回検討委員会「資料4-6」より)

### ■防災機能整備の基本的な考え方

- 文部科学省「避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集」では、①施設の安全性の確保、②避難所として必要な機能の確保、③避難所の円滑な運営方法の確立、④学校教育活動の早期再開が、防災機能整備の基本的な考え方として整理されている。
- バリアフリー化の推進は、②避難所として必要な機能の確保において、障害者、高齢者等の特別な配慮が必要な方々の利用を想定した機能として位置づけられている。

### ■災害発生から避難所解消までの4つの段階と必要と考えられる機能

	社会的状況	避難所の状況	必要と考えられる機能
救命避難期 (～避難直後)	災害の発生 ライフライン等の途絶	地域住民の避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校施設の安全性</li> <li>● 災害情報の入手や救援要請に必要な情報通信</li> <li>● 緊急避難場所または避難所への進入経路・方法</li> </ul>
生命確保期 (～数日程度)		避難所の開設 自治体による運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トイレ (断水時利用可能、多機能トイレ)</li> <li>● 照明、情報通信、電力・ガス</li> <li>● 備蓄スペースおよび食料・飲料水</li> <li>● 居住・運営のためのスペース</li> <li>● 要配慮者への対応</li> </ul>
生活確保期 (～数週間程度)	ライフライン・ 情報通信の漸次復旧	自治組織による運営への移行、ボランティア活動の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 衛生、プライバシー</li> <li>● 相談・交流等の機会</li> <li>● ペットの飼育ルール</li> </ul>
教育活動再開期 (～数か月程度)		教育活動の再開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難所と教育機能のゾーン分け・動線分け</li> </ul>
		避難所の解消	

## 第3回検討委員会の意見まとめ (本検討委員会「資料5」一部抜粋・編集加工)

### バリアフリー・ユニバーサルデザイン

①学校のバリアフリー化は遅れている。子どもが通う小学校はエレベーターがなく、体育館にスロープもない。体育館などのスロープ設置は、喫緊の課題として取り組んでもらいたい。

②車いす使用者が教室に入ることは難しい。ただ、教室の全てにはアクセスできなくとも、特定の位置には入れるような空間づくりをしてほしい。

③肢体不自由の場合は、学校のバリアフリー化ができていればどの教室にも通うことができると思う。

④基礎的条件整備がなされていれば身体障害を持つ子どもたちの大部分を一般の学校で受け入れられると思う。改築する学校だけでなく、既存の学校のバリアフリー化を図ることも重要である。

⑤特別支援学校に通う子どもにとっては、目や耳からの情報を遮断できる部屋が重要。可動間仕切りで部屋を仕切ったり、机を折りたたんだりできるとよいと思う。

⑥将来的には、特別に支援が必要な子どもが本人の希望に応じた学級で学びが実現できるようになるべきである。

⑦知的障害と情緒障害は障害の特性上、それぞれに応じた空間が必要だと思う。

⑧学校での医療的ケア児の受け入れについても議論すべき。

⑨設置校を見ると知的障害学級のほうが圧倒的に多いが、情緒障害学級にも注力した方がよいのではないかと。

⑩避難所運営の面でもバリアフリー化は必須。ただ、バリアフリー化が図られていると評価されている学校についても、実際に避難所として利用すると難しい場合がある。

⑪視覚障害や聴覚障害のある方々も視野に入れ、デザイン的なマニュアルをしっかりとつくり、それを実現することが重要。

### インクルーシブな学校

⑫自閉傾向のある子ども、精神障害のある方々、食物アレルギーを持つ方々など災害弱者の課題も意識する必要がある。災害時にもあらゆる人の拠り所となるよう整備することが重要。

⑬避難所のアナウンスがほぼ放送のみで、聴覚障害者の方に情報が届かなかった事例がある。ITなども活用し、視覚的に伝えられるような方法を考えるべきである。

⑭バリアフリー協議会に参加していた際、聴覚障害者の方から、緊急時に光るランプがあるとよいという意見があった。聴覚障害者など、幅広い障害を意識してもらいたい。

### 避難所としての学校

⑮避難所として開設された場合の物資供給や救急車両の進入を見据え、校門からの自動車動線を考える必要がある。

⑯平山小では、台風19号の際に山から水が流れ込み、それが原因で避難経路の変更を迫られた。バリアフリー化も重要だが、各々の学校が抱える地理的課題も考慮する必要がある。

⑰避難生活に必要な設備や備蓄などについても、指針に入れておきたい。

⑱浸水想定区域内にある学校は2階に上がる必要があるが、現状、電源が消失すると階段を使わずを得ない。他の動線の確保や電源設備の移設の検討が必要。

⑲電源や資金の確保の観点から、ソーラーパネルの設置を検討してほしい。

⑳学校管理者と避難者との間で、避難所に対するニーズや生活行動について話し合っておく必要があると思う。教育再開と日常生活との折り合いの観点も必要

## 避難所としての学校施設に関する問い

- 能登半島地震を踏まえ、あらためて避難所としての学校施設に求められる機能は何か？（現地から得られた情報などをもとに意見交換）
- 児童生徒の学習活動と避難所機能を両立し、さらに教育活動を早期に再開させるために、学校施設はどうあるべきか？（市民意見より）

### 石川県の状況（令和6年1月29日正午現在の文部科学省発表に基づく）

- 避難所として運用されている石川県内の学校は、小学校で26校、中学校で10校である。（その他、高等学校等が避難所に含まれ、県下では48校が避難所となっている。）
- 休校・短縮授業となっている石川県内の学校は、小学校で7校、中学校で2校である。（オンライン授業で再開した学校は含まれない。その他、特別支援学校が1校含まれる。）
- うち、再開未定の公立学校は小学校で6校、中学校で1校である。特別支援学校も1校含まれる。

## 2) 中間報告に向けた整理

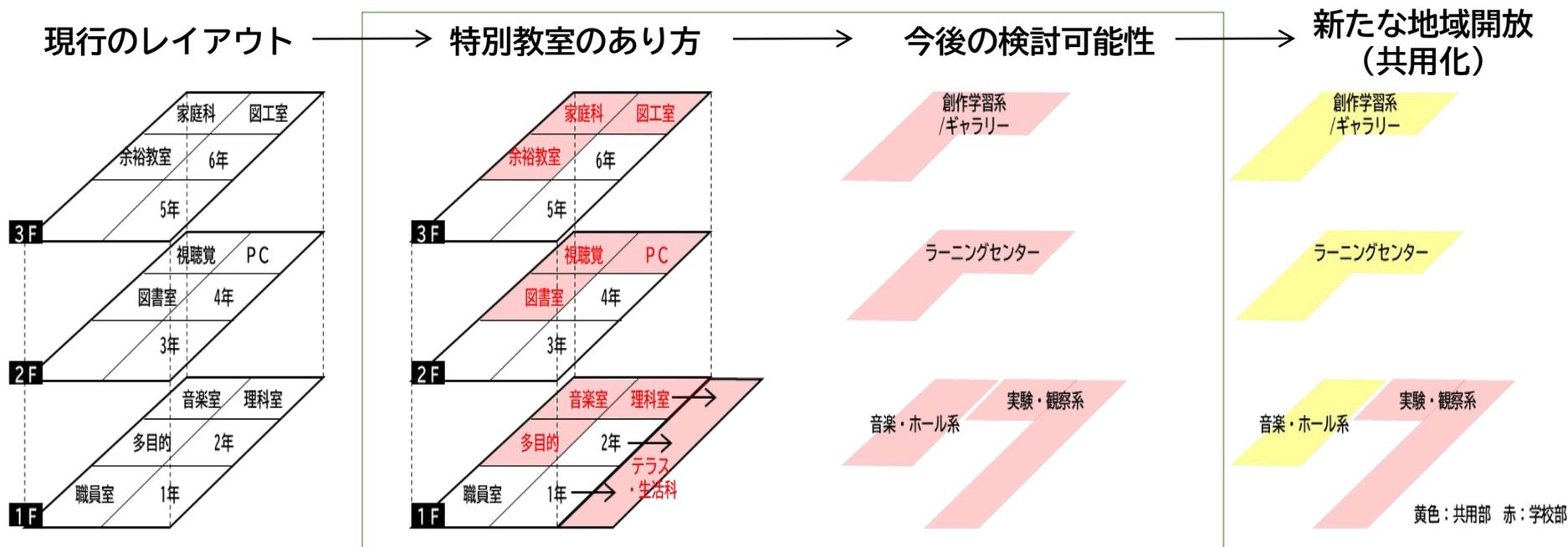
資料2 「中間まとめに作成に向けた検討のふり返し」 参照

### 3) 特別教室の設置・整備に関する考え方

## 第4回検討委員会の「特別教室」の検討フェーズ

注) 下記は特別教室の設置や機能を「検討手順のイメージ図」であり、諸室の名称や配置や共用化の位置などを議事として、検討委員会で意見交換するものではありません。

### 「特別教室の設置・整備に関する考え方」の検討範囲



## 特別教室に関する問い → 「※施設整備方針」における諸室機能の方向性

- 特別教室のあり方、あるいは教室のあり方というのは、本当にこの先10年後20年後、現状のまま続くのであろうか？ (第2回検討委員会基調講演より)
- 教育的観点から、これからの時代における特別教室における学習機能や設備はどのようなスタイルが求められるか？ (方向性の検討)

### 3) 特別教室の設置・整備に関する考え方

教育的観点からの見た特別教室 = 「学校施設整備指針」 (資料 3-1 学校施設整備指針 (抜粋))

#### ■特別教室の整備に関する基本的な考え方

- 文部科学省では、学校教育を進める上で必要な施設機能を確保するため、学校施設の計画・設計におけるガイドラインである「学校施設整備指針」を学校種ごとに策定している。
- 本指針は、令和4年度には「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」「インクルーシブな学びや新しい時代の特別支援教育を支える学校施設」という観点で更新されている。
- ただし、記載内容は下記のとおり従来の学校施設に設置されている特別教室のラインナップである。

#### ■小学校における主な特別教室

- 理科教室
- 生活科のための施設
- 音楽教室
- 図画工作教室
- 家庭教室
- 外国語活動室
- 視聴覚教室
- コンピュータ教室
- 図書室
- 屋内運動場
- 屋内プール

例えば

#### 10 図画工作教室

- (1) 表現活動の内容に応じた適切な大きさの可動式の机等を活動しやすい間隔で配置することができるよう面積、形状等を計画することが重要である。
- (2) 収納、保管、展示、鑑賞等のための家具等を設置することのできる空間を確保することが重要である。
- (3) 平面的な表現に係る学習空間と立体的な表現に係る学習空間は、それぞれ区分するとともに、必要に応じ一体の空間としても利用することのできるような室構成とすることが望ましい。
- (4) 工作用の機械等を児童が安全に利用できるような動作空間を計画しつつ、危険防止の防護柵等で分けられた空間にまとめて設置することのできる面積、形状等とすることが重要である。
- (5) 十分な水栓、流し、水切り等を利用しやすいよう設置することのできる空間を確保することが重要である。
- (6) 揮発性の高い塗料等の危険な材料、各種工具等を安全に保管し、また、製作途中の作品等を一時的に保管することのできる空間を準備室内等に設けることが重要である。
- (7) 附随して戸外に、直接出入りすることのできる、流し等の設備を設けた活動空間を確保することが重要である。

→諸室の基本的な整備アウトラインが記載

#### ■中学校における主な特別教室

- 理科教室
- 音楽教室
- 美術教室
- 技術教室
- 家庭教室
- 外国語活動教室
- 視聴覚教室
- コンピュータ教室
- 図書室
- 屋内運動場
- 武道館
- 屋内プール

※小学校・中学校の学校施設整備指針にて「第4章 第2 学習関係諸室」「同 第3 屋内運動施設」に記載された諸室に基づく。

## 特別教室などと付帯する設備について教員が求めていること (令和4年度基礎調査業務報告書参照)

令和4年度基礎調査による教員アンケート集計結果 (第7章「学校運営の状況」) P7-13~22

### 教員アンケートにおける特別教室に関する回答

#### 《現状課題に関すること》

- 理科教室、音楽教室、家庭科教室、図画工作教室、技術教室については、総じて教室の狭さや機器・設備の老朽化が指摘されており、最新の機器による教育活動が望まれている。
- 機器や楽器など教具を保管する場所が少なく、また図画工作教室、技術教室については展示スペースが十分でないことも指摘されている。

#### 《今後の整備の方向性に関すること》

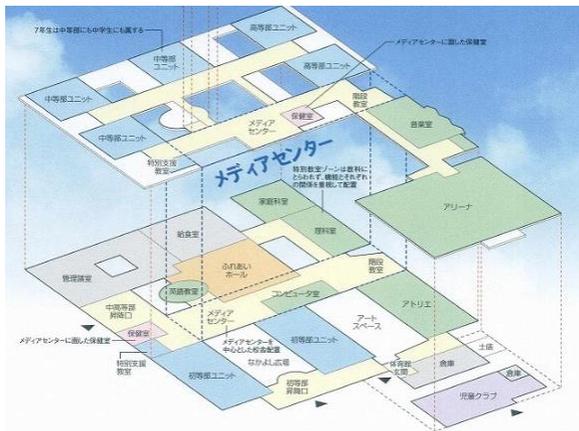
- 各特別教室はその教科によって使いやすい仕様があるため、時代の変化とともに教室のレイアウトもフレキシブルであると、子どもが学びやすい環境になること。
- また、具体的事例として、学校図書館とコンピューター室が一体的に整備されることで、タブレット端末や図書による調べもの学習において「学びのセンター (学習拠点)」になりうるなど、特別教室の今後のあり方に踏み込んだご意見が見受けられた。

● 普通教室：学習スペース/収納などが「フレキシブル」であること (第3回検討委員会)

## 特別教室に関する問い（再掲）→「施設整備方針」における諸室機能の方向性

- 特別教室のあり方、あるいは教室のあり方というのは、本当にこの先10年後20年後、現状のまま続くのであろうか？（第2回検討委員会基調講演より）
- 教育的観点から、これからの時代における特別教室における学習機能や設備はどのようなスタイルが求められるか？（方向性の検討）

（参考）特別教室における先進地事例（「愛知県飛島村立飛島学園」施設一体型小中一貫校）



【出典：飛島学園ホームページ】

### 理科室

講義・実験両方に対応した第1理科室と実験中心の第2理科室の2教室があります。準備室の前にあるワークスペースは、理科に関する展示や本、プリントなどを置いて教科スペースとして使うことができます。



黒板の向きに実験台を配置した第1理科室



実験がメインとなる第2理科室



廊下に面した準備室の棚

### アトリエ

図工、美術、技術など創作活動を行う部屋を1つにまとめた教室です。機械作業スペースが中央にあり、南側には屋内・屋外の作業スペースも付属します。



技術スペース



共通の作業スペース



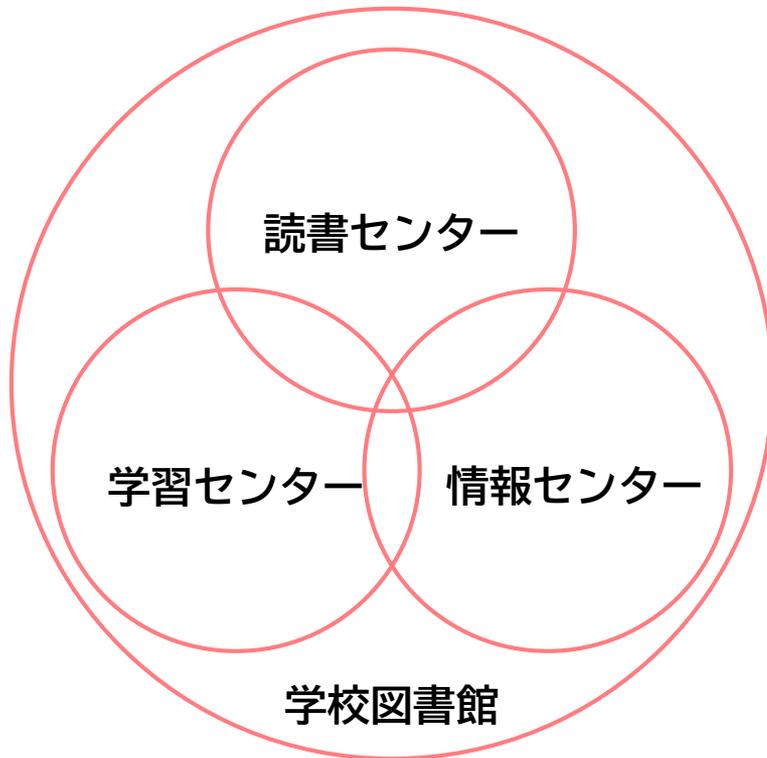
機械作業スペース

## 4) ラーニングセンターの整備の方向性

## 4) ラーニングセンターの整備の方向性

### これからの学校図書館のあり方

- 文部科学省では「学校図書館に関する指針」（2004年）にて、学校図書館のあるべき機能として、①読書センター、②学習センター、③情報センターを定義している。
- そのなかで、教員アンケートでは、多様な学習環境として図書館を活用できることを求める意見が多かった。授業で自由に使える環境にすることや、グループワークの場や放課後の自習環境としての活用について意見もあった。
- ただし、実態については、蔵書の少なさやスペースの狭さ等の観点から読書環境として不十分であり、調べ学習も十分にできないという指摘が見られた。



#### ■読書センター

児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場

#### ■学習センター

児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする場

#### ■情報センター

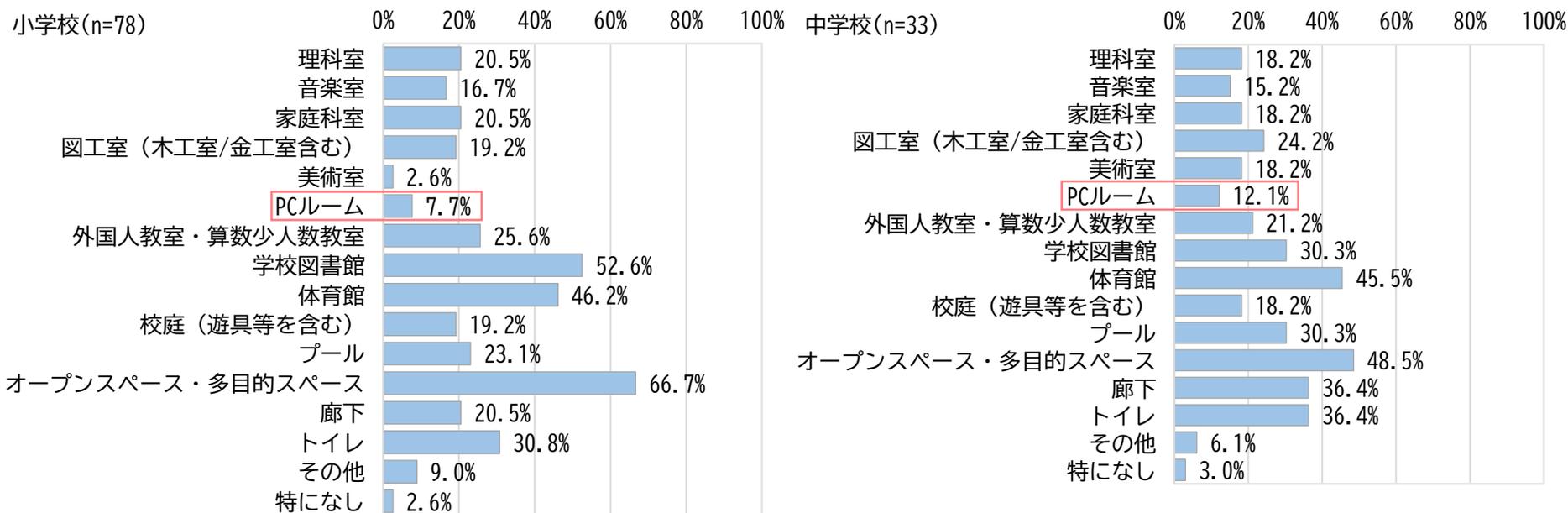
児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする場

#### 自由意見

- 本を読む環境として、リラックスできる空間があるとよいと考える。低学年の児童が手に取れる書架の高さや蔵書スペースが確保できていないことから、環境を改善できるとよい。（小学校，副校長）
- 様々な学習形態に対応できるよう、様々なスペースが欲しい。（小学校，教諭（特別支援学級））
- 新たな学びには学校図書館が不可欠であり、使いやすいレイアウトや配置場所の工夫が必要である。学校図書館の中に学習者用端末と図書資料を併用して調べたり、プレゼンテーションができるスペースを整備する。（小学校，校長）

## これからの学校図書館のあり方 (令和4年度「基礎調査業務報告書」P.7-13, 16, 17~20)

- 一人一台タブレット端末を使うようになったことから不要とする意見と、コンピュータ教室ならではの活動をするために必要であるという意見の両方があった。
- コンピュータ教室を必要とする意見のなかには、視聴覚機能を充実させることでパソコンの練習にとどまらない学習センター的機能を期待する意見や、学校図書館とPCルームを一体化させることを求める意見があった。



特別教室などと付帯する設備について特に整備すべき点

### 自由意見

- 普通教室では広さやICT機器がそろわずにできない活動 (グループ活動など) ができる部屋を複数用意すると良いと思う。(中学校, 教諭 (通常学級))
- 調べ学習をする際に、図書でもPCでも調べることができるような教室があるとよいと考えます。(小学校, 教諭 (通常学級))
- 学校図書館とPCルームの一体化した整備は、タブレット端末の活用や書籍による検証といった調べ学習や読書活動による情操など学びのセンター (学習拠点づくり) として重要と考えている。本校では現在の環境を基本として、本年度と来年度で可能な整備を進めている。(小学校, 校長)

## 学校図書館の高機能化：ラーニングセンターとしての位置づけ

- 学校図書館は、3つのセンターとして機能するよう、従来のコンピュータ教室と視聴覚教室を統合し、新しい時代の多様な学びを受け止めるオープンスペースを有した**ラーニングセンター**と位置づけてはどうか。

### ■小学校における主な特別教室

- 理科教室
  - 生活科のための施設
  - 音楽教室
  - 図画工作教室
  - 家庭教室
  - 外国語活動室
  - 視聴覚教室
  - コンピュータ教室
  - 図書室
  - 屋内運動場
  - 屋内プール
- ● **ラーニングセンター**

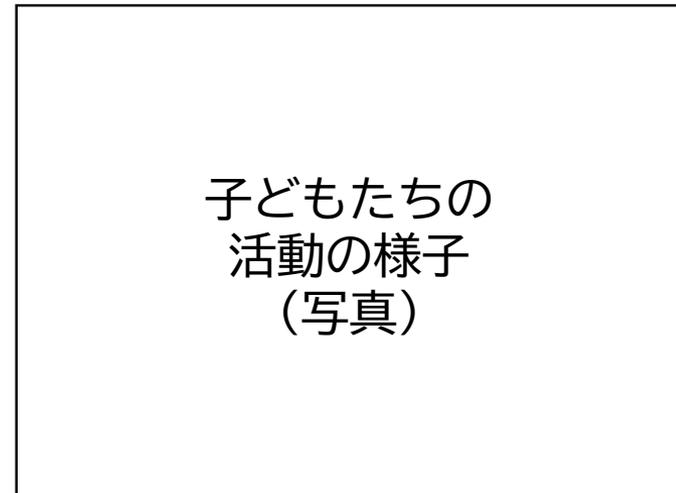
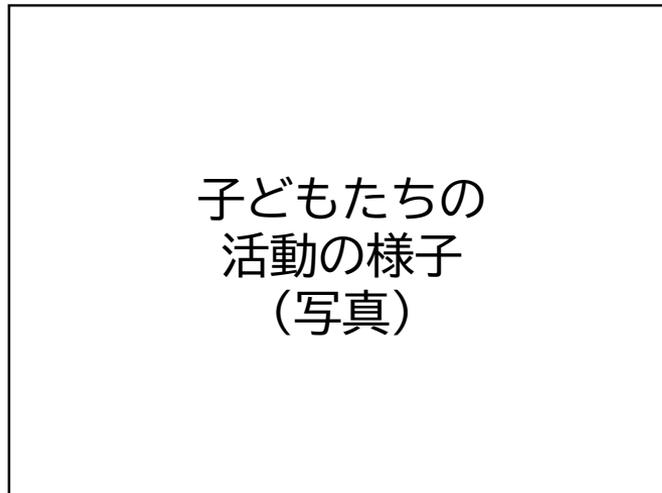
### ■中学校における特別教室

- 理科教室
  - 音楽教室
  - 美術教室
  - 技術教室
  - 家庭教室
  - 外国語活動教室
  - 視聴覚教室
  - コンピュータ教室
  - 図書室
  - 屋内運動場
  - 武道館
  - 屋内プール
- ● **ラーニングセンター**

## 日野第三中学校でのワークショップ

- 現状の学校図書館は、教室から遠くアクセスしにくいという意見が聞かれた。
- 学校図書館に求めることとしては、居心地よく自由に過ごすことができることが主に挙げられていたほか、学校の中心に配置することでアクセスしやすくすることが提起されていた。

テーマ	ワークと主な意見
第1回 学校生活の中で過ごしやすい 自分たちの“居場所”を考えよう！	<u>ワーク1「あなたが普段、学校で過ごしている場所は？」</u> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 居場所としては教室、廊下、昇降口が挙げられていた一方、図書館は教室からの遠さを理由に選ばれていなかった。</li></ul> <u>ワーク2「学校に、こんな居場所がほしい！」</u> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学校で快適に過ごすためには、自由に過ごすことができるスペースが求められていた。</li></ul>



## 日野第三中学校でのワークショップ

- 現状の学校図書館は、教室から遠くアクセスしにくいという意見が聞かれた。
- 学校図書館に求めることとしては、居心地よく自由に過ごすことができることが主に挙げられていたほか、学校の中心に配置することでアクセスしやすくすることが提起されていた。

テーマ	ワークと主な意見
第2回 みんなにとっての図書室って？	<p data-bbox="865 492 1574 528"><u>ワーク1「自分にとっての図書室を考えよう！」</u></p> <ul data-bbox="865 549 1870 642" style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の学校図書館の好きなところとしては、落ち着いて過ごすことができることが挙げられた。</li> </ul> <p data-bbox="865 664 1445 699"><u>ワーク2「快適に本を読むためには？」</u></p> <ul data-bbox="865 721 1870 871" style="list-style-type: none"> <li>・ ①快適な読書空間、②資料や検索機能の充実、③廊下と一体になった開放性があること、④音によるゾーニングがされていること、⑤飲食ができることなどが挙げられた。</li> </ul>

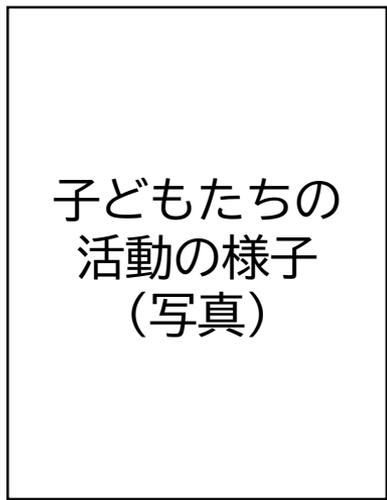
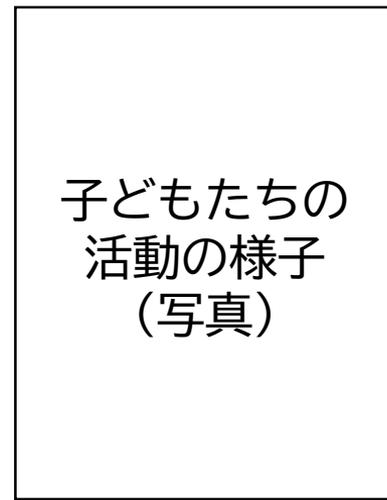
子どもたちの  
活動の様子  
(写真)

子どもたちの  
活動の様子  
(写真)

## 日野第三中学校でのワークショップ

- 現状の学校図書館は、教室から遠くアクセスしにくいという意見が聞かれた。
- 学校図書館に求めることとしては、居心地よく自由に過ごすことができることが主に挙げられていたほか、学校の中心に配置することでアクセスしやすくすることが提起されていた。

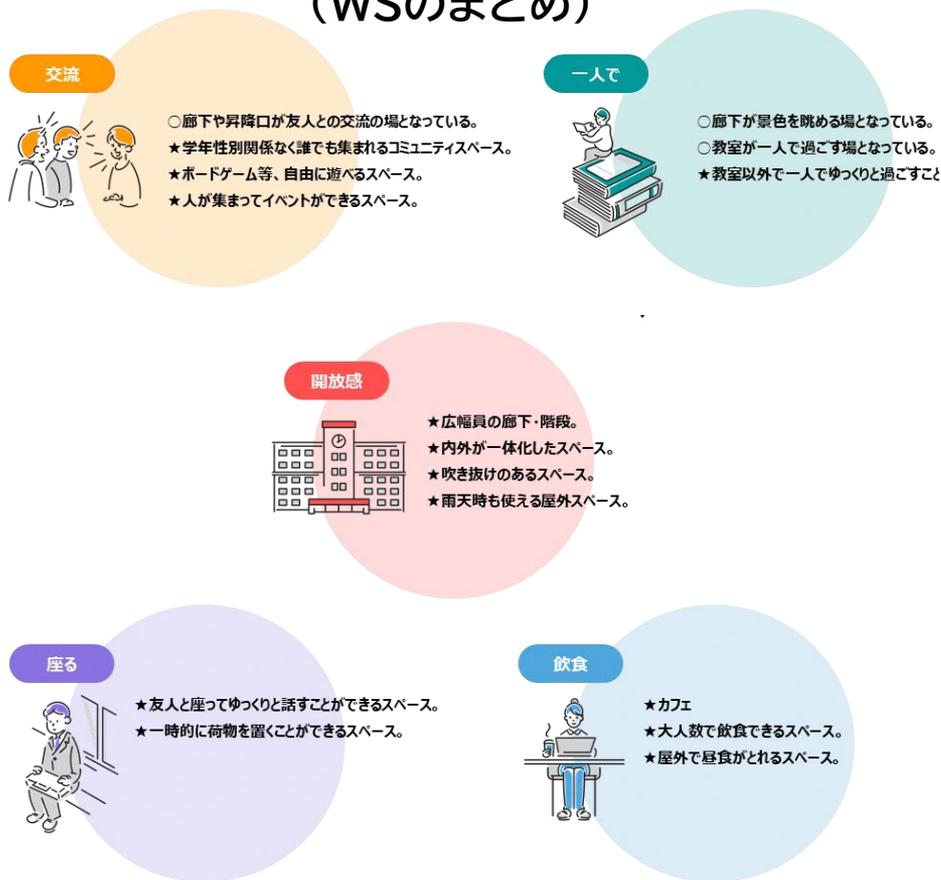
テーマ	ワークと主な意見
第3回      こんな図書室だったらいいな！	<p><u>ワーク1「理想のラーニングセンターを描こう！」</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 読書スペースのほか、個室（自習スペース）、交流スペース、飲食スペースが挙げられた。</li><li>・ 地域住民の利用を想定して検討しているグループもあった。</li></ul> <p><u>ワーク2「ラーニングセンターの配置を考えよう！」</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 共通して、通常学級から平等の距離で配置されていた。</li><li>・ 学校の中心に置くことを提案したグループもあった。</li></ul>



## ワークショップでの意見からみたラーニングセンターの機能

- ワークショップでは、読書や学習活動にくわえ、居場所としての図書館が求められており、居心地のよさや開放感が求められている。
- 学校における配置については、どの教室からも近く、アクセスしやすいことが求められている。

### 子どもたちが考える理想の図書館 (WSのまとめ)



### ラーニングセンターに求められる機能

- 個人でもグループでも目的に合わせて学習することができる学習スペース
- 読書を楽しみながらゆったりとした時間を過ごすことができる寛ぎスペース
- 他学年と交流することができるコミュニティスペース【ラウンジ】
- 窓際の明るく景色の良い空間居心地の良い
- 中央の外からの明るさが届かない場所については、吹き抜けや高天井にしてのハイサイド窓等により採光を確保する。
- 外の内をつなぐ中間領域(半屋外空間)の活用
- ゆとりある机や椅子を配置した閲覧スペース
- 座り方を選択できる多用途の家具類(ソファ、クッション等)の設置
- イベントづかいできる屋外空間との連結

# 4) ラーニングセンターの整備の方向性

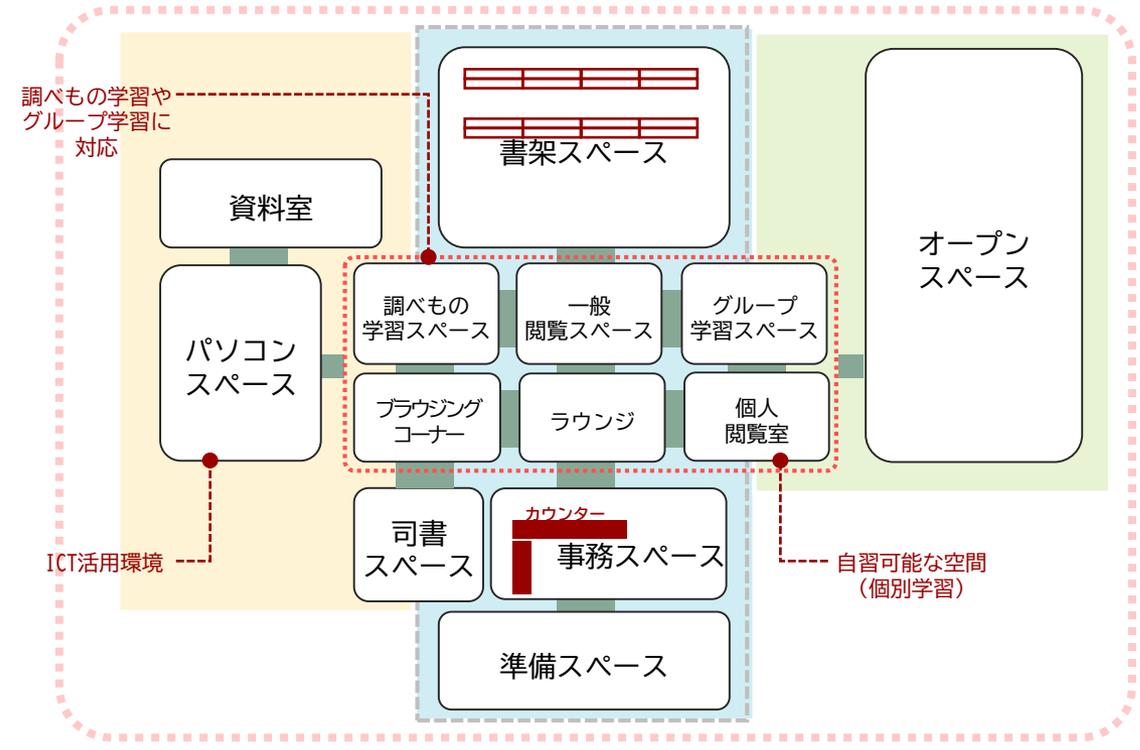
## ラーニングセンターの機能構成

- 従来の書架スペースと閲覧スペースから構成される図書室に対し、資料やタブレット端末を組み合わせ、個人やグループなど様々な単位で学習ができるスペースを配置する。
- さらに学習センター機能としてオープンスペースを配置し、授業で使うことができるようにする。
- 情報センター機能の拡充として、パソコンスペースを配置し、タブレット端末ではできない作業や調べものができるようにする。

従来の図書室の構成



ラーニングセンターの構成案



情報センター機能      読書センター機能      学習センター機能